PART4「て」の識別

【識別対象】

1 接続助詞「て」

2 完了の助動詞「つ」の「　　形」か「　　形」

★**〈見分け方〉**＝「　　」に「　　」が**有る**か**無い**かを確認。

（**＊1、2**ともに、上は必ず「　　形」である）

1「　　」＝接続助詞「て」

（例）置き**て**逃げ**て**来ぬ。

2

「　　」＝完了の助動詞「つ」

※例外　「**て**ば」「**て**ばや」の「**て**」は「　　　　」

（例）

大井河になが**し****て**けり。

信濃なる筑摩（ちぐま）の川の細石（さざれし）も君し踏み**て**ば玉と拾はむ

問十三　「御覧じてけり。」の品詞構成の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞＋助動詞＋助動詞　　イ　動詞＋助動詞＋助詞

ウ　動詞＋助詞＋助動詞　　エ　名詞＋動詞＋助動詞＋助動詞

オ　名詞＋動詞＋助詞＋助動詞　　カ　名詞＋動詞＋助動詞＋助詞

第19講　PART4　確認問題

①「春過ぎて夏きたるらし白たへの衣乾したり天の香具山」の傍線部の活用形として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

②「あるじゆるしてけり。」の傍線部の文法的意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　推量　イ　過去　ウ　使役　エ　完了

③「その沢のほとりの木の蔭に下りゐて、乾飯食ひけり。」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　下りて座ったまま
イ　下りて座りながら
ウ　下りて座って
エ　下りて座らずに

④ 「これ隆家が言にしてむ」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞「す」の連用形＋完了の助動詞「つ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
イ　サ行変格活用動詞「す」の連用形＋単純接続を表す接続助詞「て」＋推量の助動詞「む」の終止形
ウ　過去の助動詞「き」の連体形＋完了の助動詞「つ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
エ　過去の助動詞「き」の連体形＋単純接続を表す接続助詞「て」＋推量の助動詞「む」の終止形

⑤ 傍線部から、他と異なるものを次の中から選べ。

ア　みそかに姉君をかたらひてむと思ひ…
イ　突き殺してば、いかがせまし。
ウ　へそのしもを突きてけり。
エ　うれしき心地して歩むに、…

第19講　PART4　解答

問十三　ア

第19講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

① 傍線部下の「て」は、「接続助詞の『て』」、「完了の助動詞『つ』の未然形もしくは連用形」のいずれかと考えられるが、どちらの場合も上は連用形である。よって、正解はイ。

② 下に助動詞がある場合の「て」は完了の助動詞「つ」の未然形か連用形である。「けり」は連用形接続。よって、正解はエ。

③ 下に助動詞はないので、傍線部の「て」は単純接続を表す接続助詞の「て」である。よって、ウが正解。

④ 「て」の接続と、下に助動詞があることから考えるとよい。「て」の上は必ず連用形。よって、ウとエは削る。また、下に助動詞が来る場合の「て」は完了の助動詞の未然形か連用形で、「む」は未然形接続。よって、アが正解。

⑤ アは、下が助動詞「む」なので、傍線部も助動詞。イは、下が接続助詞「ば」だが、「てば」「てばや」の「て」は助動詞。ウは、下が助動詞「けり」なので、傍線部も助動詞。エは、下が「歩む」で助動詞ではないため、傍線部は接続助詞。よって、エが正解。

〔解答〕

① イ　② エ　③ ウ　④ ア　⑤ エ